



龍ケ崎の夏の風物詩 450年以上続く地上14mの妙技  
 伝統芸能の迫力を生で！今年は初めて小学生を会場に招待し、後世へ繋ぎます。

## 国選択・県指定無形民俗文化財「<sup>つくまい</sup>撞舞」が開催（7/23）

約450年、地域の力により受け継がれ、龍ケ崎市の夏の風物詩である国選択・県指定無形民俗文化財「撞舞（つくまい）」が7月23日（日）夕刻に龍ケ崎市撞舞通りで開催されます。

今年は、龍ケ崎市撞舞保存会（会長：山崎 忠）と龍ケ崎市観光物産協会（会長：塚本 裕）が連携し、撞舞の迫力を肌で感じてもらうことで、伝統ある「撞舞」が後世に引き継がれることを願い、市内の子どもたちを会場に招待する予定で準備を進めています。

### 【撞舞について・・・】

「撞舞」とは、高さ14メートルの柱に笛や太鼓の囃子に合わせて暗緑色のたっつけ袴に蛙の面をかぶった「舞男（まいおとこ）」と呼ばれる演者が登り、柱の上で逆立ちや弓を射ったりする伝統芸能です。

もともとは、雨乞いや豊作祈願、疫病よけの意味があるといわれており、「舞男」が放った矢を拾った人は1年間災厄を免れるといわれています。

■日 時	平成29年7月23日（日）夕刻 午後6時頃から ※開始時間は天候等により前後します。
■場 所	龍ケ崎市根町「撞舞通り」（所在地：龍ケ崎市3429番地3地先）
■主 催	龍ケ崎市撞舞保存会
■参加者	来場者見込み 約13,000人（平成28年度実績：12,300人）
■資料	会場位置図、昨年度の模様

担当課

龍ケ崎市 市民生活部 商工観光課 観光物産グループ  
 担当者：秋山（あきやま）・池田（いけだ）・本間（ほんま）  
 連絡先：0297-60-1536（直通）

【昨年度の模様】



【会場位置図】

